

平成30年第5回
総務文教常任委員会

所管事務調査報告

日 時：平成30年5月16日(水)
午前10時00分～午前11時10分

場 所：委員会室

調査内容：企画情報課所管事務調査
(1) 国見ホイスコーレ事業について

出席者：総務文教常任委員

説明者：企画情報課長、総合政策室長

国見町議会

松 浦 常 雄 委員長 2 ~ 3

浅 野 富 男 副委員長 4

東 海 林 一 樹 委員 5

八 島 博 正 委員 6

佐 藤 定 男 委員 7

松 浦 和 子 委員 8

平成30年第5回総務文教常任委員会 企画情報課所管事務調査報告書

平成30年5月17日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦常雄

【調査内容】企画情報課所管事務調査

(1) 国見ホイスコーレ事業について

(*ホイスコーレ=デンマーク語で「学校」の意)

対話を通じて学ぶことが基本。事業内容は、次の3点。

① 国見プロジェクト学習 (対象：中学生)

- 学校では学べないことを学ぶ。(自分たちの生活に関係のある法律や町のことなど気になることが見つかる。(会話を通じて将来への興味関心、高校、大学で学びたいことを見つける。))
- 最新のツールを活用して学ぶ。(iPadを使いながら、インターネットを利用した調べ学習や、動画作成など)

② 国見カスタムラボ (対象：高校生、大学生、社会人)

- 自分たちのアイデアが形になる。(国見の資源にアイデアを加えてイベントを実施していく。)
- 普段は出会えない人と出会える。(アイデアを形にするために社会の最前線で活躍する人から知識や能力を学ぶ。)
- 活動を通じて成長を実感できる。(自分の活動を振り返り、自分の強みや成長のポイントを理解し、就職活動や、キャリア設計に役立てられる。)

③ 短期ホイスコーレ (対象：高校生、大学生、社会人)

- 北欧の教育を体感できる。(フォルケホイスコーレとは、北欧にある「自分を見つめ直す学校」であり、共に生活することで、見つかる気づきを大切にする教育を体感することができる。)
- 世代・国籍を超えた交流ができる。(世代も出身も異なる人たちが集うから、多様な感じ方、価値観を知り、既存の価値観にとらわれない「新しい自分」を発見することができる。)
- まちづくりに関わることができる。(科目は、「国見町」。国見町で時間を過ごすことで、町に住んでいる人の想いや、地域の課題を肌で感じていくことができる。その感じたことを形にしていくことで自分たちの声が反映されていく。)

○国見ホイスコーレの予算

平成29年度 町負担額：766千円

平成30年度 福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）（県）補助金を活用
事業費総額：9,500千円（補助率3/4）

町負担額：2,375千円（内ふるさと納税760千円）

平成31年度 引き続き福島県地域創生総合支援事業の（県）補助金を活用する
予定。

【感想】

- （1）ホイスコーレとは、対話を通じて学び合う場であり、いわば「学校」であることが理解できた。
- （2）通常の学校では学ぶことのできない幅広い体験を含めた学習ができること、また、それを通して、自分を見つめ、自分の強さ、よい点など新しい自分を発見できる場となることが期待できる。
- （3）国見ホイスコーレ事業は、これからの町や、地域を支える人材育成をめざしていることが理解できた。
- （4）誰でも参加できることはよいが、国見の人間により多く参加してほしいと感じた。
- （5）ホイスコーレは、一般的には、まだなじみのない言葉であり、内容も理解されていないので、これまでの成果を含め、町民に広く知ってもらえるように努める必要がある。

以上

平成30年第5回総務文教常任委員会 企画情報課所管事務調査報告書

平成30年5月22日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 浅野富男

【調査内容】企画情報課所管事務調査

(1) 国見ホイスコーレ事業について

「ホイスコーレ」とはどのようなことか。先般行った議会報告懇談会で寄せられた質問である。そんな背景を考えながら調査に臨んだ。語源はデンマークで取り組まれている事業とのことである。デンマークフォルケホイスコーレとして行われておりいわば国民学校と翻訳できる内容のようである。17歳以上であればだれでも入学ができ、自分の興味のあることを探したい人、新しいことをしてみたい人が自分を見つめ直す場所とのことである。

国見ホイスコーレは国見町の現状と課題から、次世代の創り手となる世代の育成を見つめるのが主要なことと受け止める。少子化・高齢化は全国的な課題であることは言うまでもないことだが、このことも本町の課題として位置づけられている。また若者と自治体・地域住民とが交流できる場がないという事も課題としている。このようなことからこれからの自治体は、住民が自ら考える意思で戦略的に創り上げていくものとなることから、若い世代には学業とは別に視点を変えた学びの場を提供しようとするものが、国見ホイスコーレ事業と考える。

- ・国見プロジェクト学習 中学生を対象として授業以外の事を学ぶ、見つける。
 - ・国見カスタムラボ→新しいことへの挑戦、交流を通した学びの場。
 - ・短期ホイスコーレ→北欧の学び方に倣い、国際的な視点からまちづくりを考える。
- 以上の3本の柱で事業を進めるものである。

【感想】

事業そのものは、大きな問題はないと思うが、カタカナで名前を付けることには、非常に苦言を呈したいのが自身の意見である。このような事業名は若者受けするのだろうか。また補助金頼みだけの事業になってはいないかとの疑問が残る。

以上

平成30年第5回総務文教常任委員会 企画情報課所管事務調査報告書

平成30年5月22日

国見町議会議長 東海林一樹

【調査内容】企画情報課所管事務調査

(1) 国見ホイスコーレ事業について

ホイスコーレとは、デンマークの「国民学校」のことで、学校では学べないようなことを学ばせようというのが目的である。

町では3つのコースを設定し、それぞれ対象者が中学生、高校生、大学生、社会人などとし開催することになる。

つまり、人間教育をすることで個々の達成感や、人間としての生きがいを培い(学ぶ喜びを引き出す人材教育)、ひいては将来地域に貢献できる人間の教育をする場の提供ということである。

以上

平成30年第5回総務文教常任委員会
企画情報課所管事務調査報告書

平成30年5月22日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

記

【調査内容】企画情報課所管事務調査

(1) 国見ホイスコーレ事業について

事業の目的と事業内容について説明があり、これまでの国見町の取り組みの紹介があった。今年度の取り組みについてと、今後の課題と展望についても説明があった。

【感想】

- (1) 全体的に目的が何なのか理解できない。空き家対策のためなのか、人づくりのためなのかわからない。
- (2) デンマークの国民学校の理念とは別世界の様に感じる。
- (3) 今後も十分検討していきたい。

以上

平成30年第5回総務文教常任委員会 企画情報課所管事務調査報告書

平成30年5月18日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

【調査内容】企画情報課所管事務調査

(1) 国見ホイスコーレ事業について

1. 国見町の現状と課題

- 少子・高齢化が急速に進む中、国見町も現在の人口9292人（4月末）が平成52年には6252人、平成72年には4029人と推計されている。
自治体存続のため、住民自ら何をすべきか考えていかなければならない。
- 国見町には若者同士での交流の機会や、若者と自治体・地域住民とが交流できる「場」がない。若者が多世代で本当に学びたいことが学べる「人生の学校」づくりが、「国見ホイスコーレ」である。

2. 国見ホイスコーレとは

- 国見プロジェクト学習（対象：中学生）
 - ・生活上の法律、町のことや、最新iPadを使った学びを体験できる。
- 国見カスタムラボ（対象：高校生、大学生、社会人）
 - ・自分たちのアイデアでイベント実施、様々な分野で活躍する人から学ぶ。
- 短期ホイスコーレ（対象：高校生、大学生、社会人）
 - ・北欧の教育体験、世代・国籍を超えた交流や「まちづくり」に関わる。

3. 成果と今後の課題

- 全国的にも「新たな」取組みであり、各種メディアにも掲載され国見町の認知度向上にも繋がっている。参加者の満足度も高い評価を得ている。
- 平成33年度を目途に、この事業の運営を持続可能な仕組みにできるよう運営主体の仕組みも検討を進めていく。（例えばNPO化など）

【感想・意見】

- 人口減少が避けられない中、生きがいをもった生活が求められる。
- そのためには若者が多くのことを学び、国見町に関心を持つことでシビックプライド（愛着心）が培われるのであろう。期待したい。

以上

平成30年第5回総務文教常任委員会 企画情報課所管事務調査報告書

平成30年5月21日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦和子

【調査内容】企画情報課所管事務調査

(1) 国見ホイスコーレ事業について

ヤングカレッジ事業として平成29年度よりスタートした事業。

①国見町の現状と課題

- ・急速な少子化による人口減少。当町の人口も2040年には6,252人と推計されている。
- ・状況を踏まえ次世代の創り手となる世代の育成が求められている。

②国見ホイスコーレとは

- ・学びたいことが学べる「人生の学校」づくりプロジェクトとしてスタートした事業。
- ・国見プロジェクト学習（対象：中学生）・国見カスタムラボ（対象：高校生）・短期ホイスコーレ（対象：高校生、大学生、社会人）の3つのプログラムでスタート。
- ・予算は平成30年度から3年間の事業総額10,000千円（うち、福島県地域創生総合支援事業の補助率3/4）3年間で自走できるプランを作成。

③これまでの成果

- ・全国的にも新たな取組。ふるさと納税寄付にも繋がっている。また、ホイスコーレの先進地であるデンマーク大使館の協力も得ている。

④今後の課題と展望

- ・ホイスコーレとコミュニティ・スクールとの連携、事業者や町民との連携が大切。
- ・教育は1、2年で結果が出るものではない、長期的に考えていく。
- ・平成33年度をめどにホイスコーレの運営主体の仕組みの検討を進める。

【感想】

国見町の未来に向け、経験豊富なサポーターのもと、さまざまな学習を通して、学校とは違った学びを通し視野を広げていただきたいと思います。7月にはデンマークから12名の学生が来町するとのことで、積極的に交流し、新しい発見や、国見町の課題を見つけて発表していただきたいと思います。

県内では初めてのチャレンジとのことであるが、大きな成果を期待したい。

以上